

税理士法人 優和

経営者への活きた言葉

TEL 03-3455-6666
FAX 03-3455-7777

経営者への活きた言葉

成長資本主義が世界の不安定を招いている（その1）

小林喜光（三菱ケミカルホールディングス会長）

トーマス・セドラチェク（チェコの経済学者、「善と悪の経済学」の著者）

小林：セドラチェクさんは「善と悪の経済学」の中で「成長資本主義」に懐疑を示しています。私もそれに同感です。日本政府は名目GDP（国内総生産）を2020年600兆円にする目標を掲げていますが、その次は1000兆円を目指すのでしょうか。GDPの無限の成長を前提にした議論には違和感を覚えます。この本はメソポタミア、ギリシャ時代からの歴史や哲学、ユダヤ教やキリストなどの宗教、心理学も含むトータルな人間学として経済学をとらえており、とても新鮮です。

セドラチェク：私は本の中で、人類が資本主義というより成長資本主義に走っていることに懸念を示しています。哲学書が読むことを日課にしている私は、経済学と哲学などほかの学問領域を橋渡しする本を執筆したいと考えていました。

小林：供給過剰は21世紀の経済の特徴の一つといえるのかもしれませんが。そうするとGDPを唯一の尺度として、その最大化を目指してきた経済のあり方は間違いだったのでしょうか。

セドラチェク：一つの指標だけを見て経済を運営すると、政策に歪みが生じ、経済は不安定になります。たとえば車のよしあしは最高速度だけでは決められません。GDPだけを追求して成長資本主義のわなに陥ると、ギリシャのような国家財政の破綻に見舞われます。現代の経済は安定を犠牲にすることで、成長するシステムを作り上げてきましたが、それは一瞬で崩壊する可能性をはらんでいます。今やるべきことは、成長より経済の安定を大事にすることです。

（参考：「週刊東洋経済」2016年5月21日号）

ワンポイント経営アドバイス

新規事業を作るのは志

碓井 念（セイコーエプソン社長）

1. 企業を成長させるために新規事業を作る話はよく聞くが、本当の意味で顧客視点になっていないものも多い。実際は顧客の困り込みだったり、新たなソリューションを販売したいだけだったり。そういうのは嫌で、世の中の人から感動してもらったり、新しい価値ができたなって思ってもらったりするものを作らないといけない。だから自分は、新規事業を開発しようとはあまり思わないようにしている。新規事業は当然作りたいが、何のための事業かという志が一番大切だ。
2. 志があれば、何でもやるというわけではない。将来、こうなるといいなと考える姿と、自分たちにどういう技術や人材があって、どの分野なら力が発揮できそうかを考えて、うまく結びつくところで取り組むテーマを決める必要がある。

（参考：「日経ビジネス」：2016年5月9日号）

経営者のための危機管理

シャープの失敗に学ぶ

1. 4月2日、台湾のホンハイが外資として初めて、日本の家電大手（シャープ）を買収した。実は、中国・台湾企業の交渉のやり方は米国企業と大きく異なる。買収交渉を例にとると、米国企業の場合、買収金額を少なく見積もっておいて、交渉の過程で金額を引き上げていき、落としどころを見付ける方法がスタンダードだ。
2. 一方、中国や台湾企業の場合、はじめに相手が喜ぶような好条件を提示する。5000億円で買収しようと考えていた場合、まず8000億円を提示する、といった具合だ。金額だけでなく「経営陣の首はすぐ替えない」「リストラはほとんど行わない」といった条件を付与する。そうして基本合意に至り、買収のライバルがいなくなると、「前提が変わったので、買収金額を引き下げる。経営陣も替える必要がある。リストラも実施する必要がある」等、条件を厳しくしていくのだ。

（参考：「WEDGE」2016年7月号）

古典に学ぶ

サムライの掟

（解説）サムライの掟にあつて、最も峻厳な教えがここに見られる。サムライにとって何が忌むしいといつて、後ろ暗い行動や曲った企て以上のものはない。廉直という思想は誤っているかもしれない一それは狭かろう。

（参考：佐藤全弘訳新渡戸稲造著「武士道」：教文館）